

四日官廳公啓

供覽

昭和十五年七月

陸軍省

内閣書記官

大手町官廳街火災ニ就テ

陸軍築城部本部

梗概

大手町官廳街火災ニ就テ主トシテ消防精神、組織、訓練、施設ニ關シ所感ヲ記述セ
ルモノナリ

目次

- 第一 概説
- 第二 大手町火災状況
- 第三 大手町火災擴大ノ原因ト敎訓
- 第四 結言

第一 概 説

静岡市ノ大火及東京市大手町官廳街ノ大火ニ關シ其大火ト爲リシ原因ヲ常套常例的ニ乾燥、強風、消防隊不足、水利不足、木造建築密集等ト稱シ大火ノ都度略々類似ノ原因ヲ裂舉セラルルモ畢竟スル所ハ消防防火ノ人的竝ニ物的ノ猛火ニ對スル敗北ニ非スシテ何ソヤ誠ニ第二次世界大戰ニ思フ馳スルトキ空襲ニ因リ「ソ」聯ハ「ヘルシンキ」ニ獨ハ「ワルソー」「オステンド」「バリ」ノ一部ニ大火ヲ發生セシメ火災ハ當該市民ハ勿論延イテハ全國民ヲ恐怖混亂セシメ^{後指}無キ都市攻撃ト電撃作戰ニ依リ至短期間ニ「フインランド」「ポーランド」「オランダ」「ベルギー」「フランス」等ヲ滅亡或ハ敗北セシメタリ而シテ之カ敗戦ハ首都或ハ重要都市ノ大火ニ依ル士氣沮喪ニモ重大ナル原因ヲ存スト云フモ敢テ過言ニ非スト思惟ヤラルルニ至レリ

一國都市（要地）ノ火災ニ對スル人的竝ニ物的ノ弱點ノ存在ハ平時ノ損害ハ云フニ及ハス戰爭ノ繼續ヲ困難又ハ不能ニ陷ラシム^{現在}現在戰ハ固ヨリ將來戰ニ於テモ如何ナル空襲ヲ受クルモ戰勝ヲ獲得センカ爲ニハ都市（要地）ハ其ノ全体的機能ヲ保持セサル可ラス而シテ官廳ハ其中樞機關ナルヲ以テ特ニ今回ノ大手町官廳街火災ニ鑑ミ平戰兩時ノ災害ヲ

2 1

顧慮シ深刻ナル批判反省ヲ爲スト共ニ防空上防火ノ重要性ヲ再認識シ都市ノ消防防火ニ對シ一致以テ自衛精神ノ確立組織ノ擴大、訓練ノ徹底、施設ノ強化ニ邁進シ率先計畫的ニ實踐實現ヲ期スルノ緊急ナルヲ痛感ス謬想ヲ以テ欺瞞スルコトナク過信スルコトナク後ノ祭ト爲ルコトナク都市消防ノ完璧ニ邁進セサル可ラス

第二 火 災 狀 況

昭和十五年六月二十日午後九時五十三分東京市麴町區大手町、遞信省航空局新館二階工務課分電盤ニ落雷シ其取付羽目板ヨリ出火シ豪雨中ナリシニ不拘火廻リ早急ニシテ約二時間ニ左記建物ヲ燒失セリ

焼失	建物	延焼	延焼シテ着火タル時分	焼失經過時分	損要	
逓信省航空局	木造一棟	四六〇	九二〇	〇	四〇	當時ノ風向
企劃院	準防火構造二棟	一八七	二〇八四	一〇	四〇	風速ハ北東五米
東京稅務監督局	木造一棟	五三六	一〇四二	一〇	四〇	湿度ハ七五%ナリ
神田稅務署	本館鐵筋「コシクリット」一棟	二一五	九四一九	三〇	六〇	丸ノ内消防署
厚生省	木造全焼二棟	七一	二七八六	一四	一〇	望樓ニテ火災ヲ發見シタリトモ
大藏省(對滿事務局)中央會議所	木造二棟	一、三一〇	二、五八九	四〇	八〇	云々又企劃院火災報知機ヲ使用セリトモ稱セラル
農林省營林局	木造二棟	一、三八二	二、七〇九	三〇	一〇〇	
中央氣象臺分室						

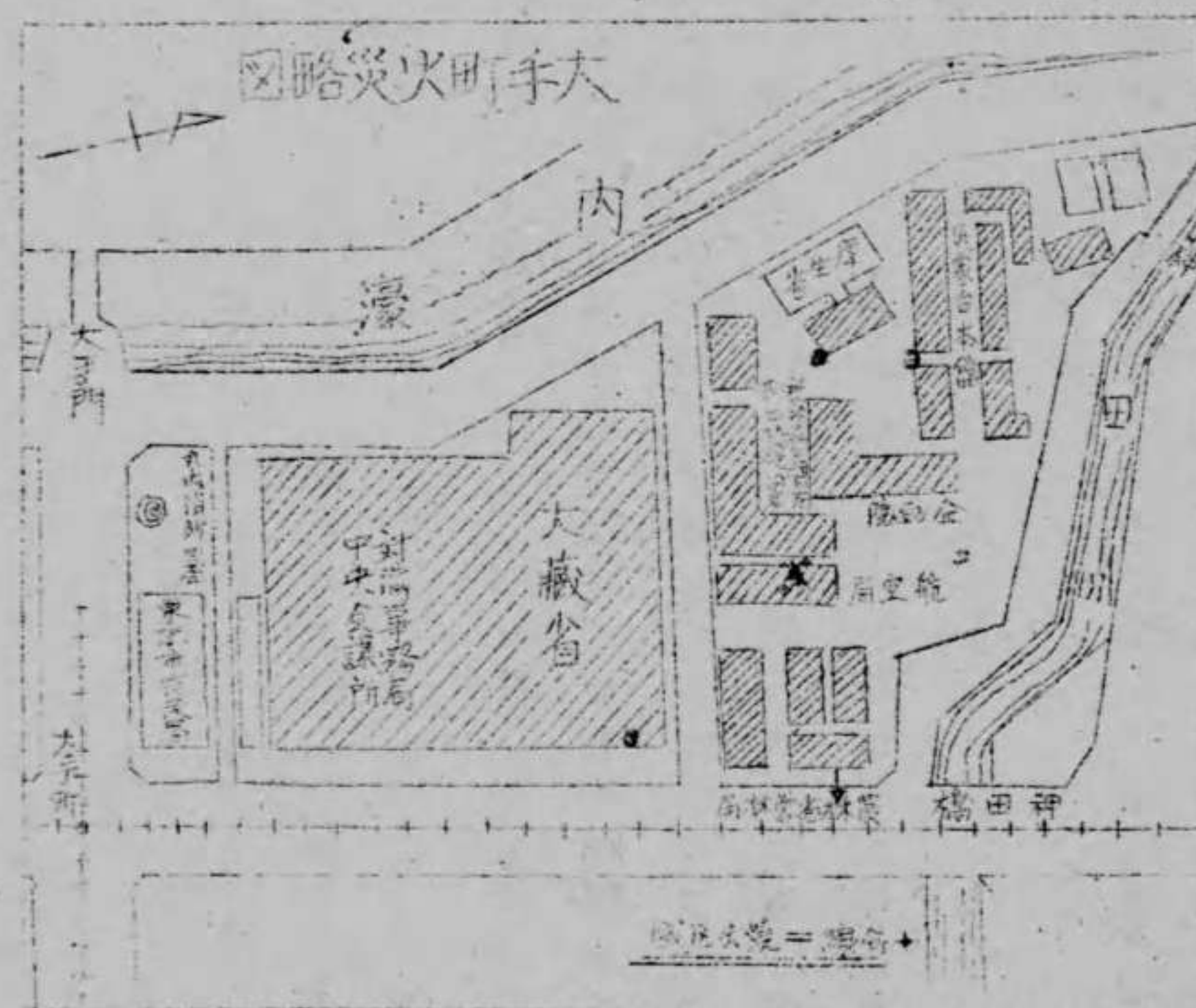
合計一三棟、延坪一五一七一坪、延坪二二一四九坪ヲ焼失烏有二歸シ且消防手警防團員二死者二名

負傷者 百餘名

ヲ出セリ

大手町火災略圖次ノ如シ

凡例
 X 落雷火災位置
 ● 煙突避難金位置
 ○ 燒失建物
 □ 残存建物



第三 大手町火災擴大ノ原因ト救済

一、「落雷ニ因ル火災ハ火元多クハ線狀火元ニシテ火廻リ一般ニ早ク且消火栓等金屬性器械ノ取扱ハ猛烈ナル雷雨下ニ於テ消防員ニ電撃ノ危險ヲ感セシメ消火活動ヲ遂巡セシメタリ」

空襲時ニ於テ爆彈炸裂ノ爆音ヲ恐レス彈片破片爆風ニ依ル傷害ニ抗シ而モ猶燒夷彈ニ因ル火災ノ早期消防ニ敢然挺身從事スルハ言フハ易ク之カ市民ノ心理的狀態ニ思ヒ及フトキハ恐怖混亂ニ依リ統制且安定セル行動ヲ取り得ルヤ甚疑問トセサルヲ得ス空襲ノ實相ヲ深刻ニ認識セシメ訓練ヲ實況ニ則セシメサレハ誰カ空襲ニ當リ關東大震災時ノ狼狽ヲ再ヒ繰返サスト斷言シ得ルモノアリヤ防空ハ戰闘ナリト稱スルモ最重要ナル都市防空戰闘要素ノ解析ト之カ綜合力ノ發揮ニ關シテハ未タ甚不十分ナリト認メサルヲ得ス

二、「各官廳ハ職員退廳後ニシテ小數ノ宿直員（航空局九名、大藏省五〇名其他未調査）警防ニ當リ而モ燒失官廳ニ於テハ何レモ高等官宿直ヲ缺キ平時ノ防火ノ指揮訓練ヲ徹底的ニ演練シアラス且寡少ナル宿直人員ニ應スル消防一般ノ施設劣弱ニシテ又各員ノ

防護任務ハ大火災ノ迅速ナル延燒速度ニ照シ過重ナリシト認メラル」

消防ノ原則ハ初期消火ニ在リ而シテ晝夜間及勤務員ノ多少ニ拘ラス大建築物ヲ防護セシカ爲ニハ火災初期ニ最大ノ消防效果ヲ發揮スヘキ強力ナル消防施設ヲ必要トス木造ノ全廢ハ最モ望ム所ナルモ不敢取豊富ナル水量ヲ有シ且壓力大ナル火災専用水道ヲ特ニ木造官廳「ブロック」街ニ設置シ（平時雜用若クハ飲料ニモ使用シ得）防火上ノ弱點ヲ補強スルニアリ其反面防火訓練ハ適正ナル想定ニ依リ少クモ年數同之ヲ實施シ全員自衛消防ニ自信ヲ有スルコト將來益々肝要ナリ

三、「丸ノ内消防隊ハ大手町ト同一消防擔任方面ニ落雷ニ因ル火災多數發生セシ關係上之カ消防ノ爲出動シ大手町火災現場ヘノ消防隊ノ多數集結ハ遺憾ナカラ迅速ナラザリシモノノ如ク又其消防戰闘ノ指揮ニ間隙スル所アリ」

空襲時ノ同時多發性火災ヲ考フレハ之ノ中ノ或ルモノハ全ク火災狀態ト爲ルハ想像ニ難カラス而シテ消防隊ノ現狀ハ特ニ其ノ唧筒保有量ノ方面ニ於テ寒心ニ堪ヘス水利施設ト相俟ツテ更ニ消防機關ノ強化ヲ必要トス更ニ消防隊ノ質的方面ニ關シテハ消防指揮通信ノ弱點ヲ再檢討シ例ヘハ指揮命令用自動車（無線ヲ有シ本部トノ連絡部隊ノ指

揮ニ使用シ指揮官旗ヲ立テ消防隊警防團家庭防空群ニ指揮官ノ位置ヲ明示スノ設置ヲ必要トスヘシ

空襲時ニ於テハ特ニ人員器材ノ損傷ニ依ル消防能率ノ低下ヲ來ス虞ナシトセス都市消防計畫ニ當リテハ此等ノ點ニ關シテモ考慮ヲ拂ヒ置クヲ要シ全般的ノ都市消防ノ缺陷ニ對シテハ其實務上積極的ニ是正強化ヲ圖ルハ當然ニシテ國民亦之ヲ望ム所ナルヘシ警防團ノ義勇奉公ノ精神ハ甚タ尊重スル所ナルモ更ニ有時ノ效果ヲ期待センニハ警防團ノ機械化警防團員ノ防空技術的訓練及人員ノ量的強化ヲ圖ル必要ヲ認ムルモノナリ又一般ニ大火ニ際シ破壊消防ヲ勞效相償ハシム（時間的ニモ）ルハ多大ノ困難ヲ伴フモノニシテ斯ル事項ハ平時ノ都市計畫ニ於テ解決シ置ク可キモノナリト信ス猶今同ノ火災ニ出動セル消防唧筒ハ六六臺ナルモ實際使用セルハ神田川ニ三臺、内濠ニ三

三臺、水道消火栓二八臺（火災發生二〇分後通水ス）計四四臺ナリ

防火用水槽ヲ構内各所ニ分散配置シアルハ各所失火初期ニ於テノ應急消火水ト思考スルヲ妥當トシ手近（少クモ一〇米以内）ニ在ラサレハ少量間渴のトナリ大火ニ至ラシム又「バケツ」消火ニ依ルモノハ羽目天井ニ火災移レハ往々撒水射程延ヒ且火熱及煙等ニ依リ逐次近接目視不能ト爲リ火災情態ニ進展スルコト稀ナラサル從來ノ實例ニ鑑ミ一部要員ハ直ニ機械消防又ハ消火栓消防ノ部署ニ就キ得ル如キ自衛消防計畫ト爲シアルコト必要ナリ火災初期ニ於ケル消火所要水量ニ關シテハ相當多量ヲ要スルモノニシテ實驗ノ證明セル所ニ安全ヲ見込ミ貯水シアルヲ要ス又自衛消防ニ則シ官廳等ノ大建築物等ニ木造ナル場合ニ在リテハ不意ノ火災ニ對スル敏速適切ナル消防判斷及指揮ハ相當ノ經驗若クハ訓練ヲ積マサレハ得テ望ミ得ヘカラサルニ拘ラス各官廳ニ於ケル晝夜間ノ消防指揮者（毎日每晚交代ス）ノ多クハ火災ノ恐ル可キハ知レトモ木造火災ノ本質特徵ヲ考究認識スル者少ク凡ソ有名無實表面糊塗の現況ニテラサルヤ指揮者タル者

宜敷平時ノ火災現場ニ臨ミ各種ノ情況ニ應スル消防ノ指揮手段ヲ考究シアルコトハ不慮ノ臨機應變ニ處シ得ル心構ナリト信ス又失火責任者ノ懲罰ハ當然ナルモ單ニ之ヲ以テ満足シアルモノトセハ特ニ空襲ニ於ケル防火ノ重要性ノ認識ニ缺クルモノアリト稱スヘク眞ノ防空防火ニ處シ得ル所以ニ非ス寧ロ時代的ニ云ヘハ自衛精神ノ確立、組織ノ擴大訓練ノ徹底、施設ノ強化ヲ圖ル可キハ特ニ官廳上司ノ責務ナリト信ス

猶今回ノ火災ニテ水道ハ斷水中ナリシモ發火後二〇分ニシテ通水シ其他神田川特ニ内濠ハ機械消防用水トシテ大イニ役立テリ是ヲ以テ見レハ内濠外周二圍繞シアル官廳ノ消防用水トシテ内濠ヲ拜用ヤンカ爲ニ内濠水面上ヨリ高地域ニ密集シアル軍官衙門亞院等ニ對シ消防水利上特ニ有效ナル如ク若干ノ施設（浚渫、水深附與、外岸消防道路、中間貯水槽其他）ヲ願出テ水利ノ強化ヲ圖リ得レハ可ナリ

五「焼失各建物ノ防火避雷施設ニ關シテハ火元航空局ニハ避雷施設ナク爲ニ落雷發火シ水道消防施設ニノミ依存シテ他ニ水利施設ナク企劃院ハ外壁準耐火構造ナリシモ窓及軒先ヨリ延焼シテ遂ニ全焼シ厚生省ハ鐵筋「コンクリート」造ナリシモ外殻ヲ殘シ内部焼失シ大藏省ハ大木造建築ニシテ航空局ト一八米ノ道路ヲ距テアリシニ不拘前面外壁羽目板

軒先窓及玄關ニ延焼シ建物中間ニハ防火壁アリシモ防火戸開放ノ儘トセル爲延焼ヲ早メ全焼セリ」

一度建物内部ニ火カ廻レハ完全ナル防火壁及防火戸無キ限り當該建物ハ全焼ノ災厄ヲ免ルコト難カラサルヘシ故ニ耐火構造若クハ準耐火構造ト爲シ窓及出入口ノ防火處置ヲ施シ適宜防火壁ヲ設ケ屋根裏ハ不燃材料ヲ以テ適宜區劃シ可燃性建築材料ハ之ヲ廢止シ建物ヲ防火的トナスト共ニ建物内外消火施設ヲ完備シ地下或ハ地上ニ安全ナル書庫ヲ設ク渡廊下ハ防火構造ト爲シ且消防機關ノ搬入ヲ考慮スルコト必要ナリ新設ノ官廳ニテハ二〇〇坪毎ニ必ス防火壁ヲ設ケ既設ノ官廳ニテハ防火壁無キモノハ之ヲ設ケ全般的ニ防火改修スルヲ可トス猶止ムヲ得サル場合ト雖モ當該建家四隣ニ對スル火災類焼ノ虞アル點點部ハ之ヲ不燃金屬板張り等ト爲シ且成ル可ク防火樹ヲ植込ム

六「大手町火災地域ハ略圖ニ示スカ如ク大木造建物密集セリ各廳ノ便宜建増主義ニ據リ數千坪ノ木造大建築雜然ト配置セラレ是等ハ概ネ渡廊下ニテ連絡シアリ消防機關ノ交通ヲ制限シ防護活動ニ甚シク不便ナリシト稱セラル且一度延焼セハ建家ノ屋根裏ハ風洞トナリテ燃焼ヲ早カラシメ屋根材落下シ又大藏省廊下ノ如キハ「リノリウム」張リニテ

火災ノ傳播ヲ著シク速ナラシメタリ」

密集家屋ハ火災類焼ノ危険甚大ナルノミナラス不慮ノ災厄發生ノ場合其防護活動ヲ著シク困難ナラシメ特ニ消防活動ニ於テ然リ火災建築物ノ消火及隣接大建築物ヘノ延焼防止ノ爲ニハ如何ナル場合ニ於テモ建物四周ヨリ放水シ得ル如クセサル可ラス故ニ建物ノ配置及大サニ關シテハ消防上消火ニ間隙ヲ生セサル如ク決定スルノ要アリ此等ノ點ヲ考慮スルトキハ建築物一棟ハ特ニ火熱猛煙ニ抗シテ風下ヨリ放水スル場合消防ノ防禦正面（一放水口ニツキ長サ約一六米）ト睨合セ四〇〇坪以下トシテ分散疎開シ且各建家相隣間隔ハ建家ノ高サ及外壁ノ構造及風速等ヨリ決定セラルル延焼安全距離（約建家高サノ一倍半以上）ヲ永久ニ確保シ其間ニハ絶体ニ建増シセサル如ク豫メ敷地ニ關シ考慮スルコト必要ナリ空地面積ニ對スル建家面積ハ五〇％ヲ限度トスル可トスヘシ猶企劃院ハ運動場ヲ潰シテ建築シ其ノ他各廳ニ於テモ竣功以來數次ノ建増シニ依リ益々密集サルモノニシテ木造建築ニ於テハ地下ノ利用ヲ殆ント考慮セラレタルモノナシモ「各廳ノ危険物及燃料ノ貯藏ハ何レモ合理合法的ナラス爲ニ延焼ヲ助長ヤシメシノミナラス爆發ヲ伴ヒ危険ヲ感ヤシモノアリ」

多量ノ危険物ヲ貯藏スルニハ完全ナル鐵筋「コンクリート」造貯藏庫ヲ地上又ハ地下ニ構築スルヲ要シ石炭等燃料ノ貯藏所附近ニハ火災時之ヲ被覆スヘキ濡砂ヲ準備シ置クヲ可トス

航空局ニハ「ガソリン」入「ドラム」罐一八本其他各廳ニモ一本乃至五本ヲ放置保有シ且石炭ヲ多量ニ貯藏セルモノ又薪以上ニ燃エ易キ紙類ヲ多量ニ集積セルモノアリテ火災ヲ擴大シ氣象臺ニハ壓縮水素瓦斯「ボンブ」二本アリ之ヲ爆發シテ消防員ニ危険ヲ感ヤシムル等全ク危険物取締規則ヲ無視シ危險物ノ火災ニ對スル關心ノ缺如或ハ熱シ易ク冷易キ國民性ヲ暴露シタリ率先垂範スヘキ官吏ニシテ且然リ官吏ノ防災科學的素質向上ニ關シ今ニシテ改ムル所ナクンハ悔ヲ千載ニ貽ス可シ

八其他防護從事者ニシテ窓及通路扉等ニ防火扉ヲ開放シタル儘ニテ最後ノ撤退ヲ爲シ爲ニ火災ノ延焼ヲ容易ナラシメシノミナラス煙ノ擴散ヲ迅速ニシ書類ノ搬出ヲ困難ナラシメシモノアリシカ如キ又自動車運轉手ノ宿直セルモノナク爲ニ多數ノ自動車ヲ燒失セルカ如キ（平時非常ノ場合ヲ考慮シアレハ燒却セザル手段アリ）平時ノ教育訓練ノ如何ニ重大ナルヤヲ知ル

猶若干參考事項ヲ述アレハ東京市市民局ハ準防火構造（モルタル塗）ニシテ六層者トノ間ニ四間道路アリ唧筒一六臺（三〇本ノ水管）ヲ以テ延焼ヲ免レシメタリ又此ノ火災ニ使用ヤシ水量ハ總量九〇〇噸ノ大量（延坪二二、一四九坪、坪當リ〇、四立方米）ニ上リ如何ニ水利施設強化ノ必要ナルヤヲ推知シ得ヘシ

第四 結

言

之ヲ要スルニ「バラツク」官廳ノ防火ニ對スル組織訓練及施設ニ關シテハ再檢討ヲ要シ特ニ施設ノ充實ヲ圖ルコト必要ニシテ施設ノ不完ハ人員ヲ以テ補ハサル可ラス人員ノ不足ハ施設ヲ以テ補ハサル可ラス

戰時戰爭遂行上現況ヲ以テシテハ轉々寒心ニ堪ヘス宜敷不造官廳ハ其防火上ノ弱點ヲ各々認識シ大規模ノ防火施設ヲ實現スルノ勇ナカル可ラス今回ノ火災例ニ見ルモ從來ノ火災例ニ見ルモ周圍ノ不造建物ノ爲ニ鐵筋「コンクリート」造及準耐火構造ニモ災類ヲ及ホシ個々主義的防火施設ハ萬全ノ效果ヲ期待シ得ス各箇防火施設ニ依ル「ブロック」又

ハ全体的防火施設ヲ實施スルノ要アリ究局スル所國家人的及物的ノ問題ニシテ防災科學ノ知識ノ向上ニ努メ一致シテ以テ防災施設擴大強化及訓練ノ適正ヲ期シ理論ト實際ト一致セシメサル可ラス有事「バラツク」ニ住ミ妥如トシテ國勢ヲ遂行シ得サルハ事ノ明白ナルニ不拘從來指導者階級ニ其人ヲ得ス又建築行政ニ缺陷アリシ爲多數ノ官廳ハ不造「バラツク」ニ放任ヤラレタリ又建築家ト大工及建築主トハ建築家ニ對スル觀念ニ於テ「間然」スル所アリ大工ハ殺人的構造又ハ燃焼構造ヲ爲シ建築主ハ之ニ一任シテ省ミス而シテ將來發展スヘキ準耐火構造ハ施工ニ間隙アラシカ一欠ノ價值ナキモノト爲ルヲ虞ル大工ニ對スル此種教育ノ必要トスル所以ナリ

防火對策ハ從來ノ火災實驗研究ニテ略明ニヤラレアリ要ハ實行力ノ不足カ災害ヲ繰返ス原因トナリツツアルハ莫クハシキ次第ニシテ實行ニハ關係者ノ熱ト信念ト意志トヲ要シ資材ノ不足ハ石煉瓦「ヤメント」等不燃燒材料ノ利用、不要資材特ニ鐵材ノ回收ニ依リ今回火災ノ官廳位ハ耐火構造ニナシ得ヘシ又某官廳ノ如ク狹キ地域ニ建増シ建増シヲ繰返シ逐次空地ヲ潰シツツアルハ寒心ニ堪ヘサル問題ナリ

書類ノ保管整理、圖書目錄ノ整理、不要書類ノ處分、非常持出箱ハ「ツツク」手提式ト

爲シ又書類特ニ重要書類ハ戸棚等ニ格納シアルモノハ平時ヨリ「ツツク」袋ニ收納シ厄
災時其口ヲ括リテ搬出シ得ルモノハ大イニ推稱シ得ヘク書類ヲ手摺ミニテ搬出スルハ防
護上好マシカラス

鐵製戸棚ノ非常持出ハ搬出困難ナリ其他荷車「リヤカー」等ノ運搬具ノ準備ハ是非必
要ナリ

訓練ハ晝夜間ニ之ヲ行ヒ又其訓練ハ實戰實用的ナルモノトシ一部陸軍官衙ニ於テ實施シ
アルカ如キ定期猛訓練ヲ爲シ最モ不利ナル條件ニ於テ再檢討再組織スル必要ヲ痛感ス

